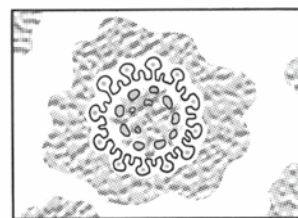


# 新型コロナウイルス感染症に備えて

NPO法人インフォメーションギャップバスター

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、聞こえない人・聞こえにくい人にとって、大切な情報が得にくい状況が続いています。また、外出もままならない状況では、情報交換も困難になり、ストレスを抱えている方も多くいらっしゃると思います。そこで、読者の皆様に役立つ情報を、医療編、法律・労働・生活編、情報・コミュニケーション編に分けてお知らせいたします。



▲新型コロナウイルス

## 医療編

文責：吉田将明(NPO法人インフォメーションギャップバスター理事、薬剤師) 医療監修者：田崎ゆき(小児科医)

※2020年4月20日時点で確認できている内容です。最新の研究結果やデータによっては、内容が変わる可能性がありますのでご注意ください。

### ● 新型コロナウイルス (SARS-CoV2) とは

電子顕微鏡で観察されるコロナウイルスは、粒子径約 $0.1\mu\text{m}$  (0.000001mm) の球形で、表面には突起が見られ、形態が王冠「crown」に似ていることから、ギリシャ語で王冠を意味する「corona」という名前がつけられています。ヒトに感染するコロナウイルスは、一般的な風邪の原因の10～15% (流行期は35%) を占めるウイルス4種類と、2002年に中国江東省で発生した重症急性呼吸器症候群コロナウイルス (SARS-CoV)、2012年にサウジアラビアで発見された中東呼吸器症候群コロナウイルス (MERS-CoV) の6種類がこれまでに知られていました。2019年12月に中国湖北省武漢市で確認された、今回問題となっている新型コロナウイルス (SARS-CoV2) は、これらとは別の7種類目のウイルスです。

### ● 症状と経過

新型コロナウイルスに感染すると、どんな症状があるのでしょうか。現時点での様々なデータによると、30～50%は無症状です。また、発症しても約80%が軽症、約14%が重症、約6%が重篤となっています。初期症状には咳や鼻水、のどの痛み、熱、倦怠感(だるさ)など風邪のような症状がみられます。



匂いや味がわからなくなる症状もみられ、重症化する場合は数日程度で急速に悪化し、肺炎に至ります。

**感染**：ウイルスなどの病原体が体の中に入り込み、増殖すること

**発症**：感染後に病気の症状があらわれること

**軽症**：肺炎をおこしていない場合 (人工呼吸器などの医療機器を使用しないかどうかなどで医師が判断)

**重症**：集中治療室 (ICU) で治療、もしくは人工呼吸器を装着する必要がある状態

**重篤**：命に危険がある状態

### ● 感染経路は2つ

感染経路は「飛沫感染」と「接触感染」の2つが考えられています。現時点では、空気中を漂うウイルスを吸い込むことで感染する「空気感染」は起きていないと考えられています。しかし、換気されていない閉め切った部屋 (密閉空間) などで、近距離 (密接場所、約



#### 接触感染

感染者が咳やくしゃみを手で押さえたあと、その手でドアノブや電車やバスのつり革など周りの物に触れると、そこにウイルスがつきます。感染していない人がそこに触るとウイルスが手につき、その手で鼻や口に触ったり目をこすったりすることで感染します。



#### 飛沫感染

感染者の咳、くしゃみなど(飛沫)により、唾液と共にウイルスが放出され、他の人がそのウイルスを口や鼻から吸い込むことで感染します。

2m) で多くの人(密集場所)と会話するなどの状況が重なると、咳やくしゃみなどがなくても感染を拡大させる可能性が高くなります。

● **主な感染予防は4つ**

感染予防としてまず一般的な感染症対策や健康管理を心がける必要があります。また、感染しやすい環境の三密(密閉空間・密接場所・密集場所)の重なりを避け、手洗いや咳エチケットを徹底しましょう。

① **こまめな手洗い**

ドアノブや電車のつり革など様々なものに触れることにより、自分の手にもウイルスが付着している可能性があります。こまめに石けんで20秒以上しっかり手を洗う、また、手指消毒用アルコールでこまめに消毒する。

② **健康管理**

普段から、十分な睡眠とバランスのよい食事を心がけ、免疫力を高める。

③ **適度な湿度**

空気の乾燥でどの粘膜の防御機能が低下しないよ



う、乾燥しやすい室内では加湿器などを使い、適切な湿度50～60%を保つ。

④ **咳エチケット**

他の人にうつさないため、咳やくしゃみをする際、マスクやティッシュ・ハンカチ、袖、肘の内側などを使って、口や鼻をおさえる。

● **マスクの効果は?**

マスクで感染を予防できるのでしょうか。残念ながら、マスクの感染予防効果は限定的です。なぜなら、マスクのフィルターは、医療用のN95などを除き、大半が新型コロナウイルスの粒子径約0.1μm(0.000001m)よりも大きいからです。しかし、咳やくしゃみなどの飛沫をとらえることは可能なので、感染者がマスクを着用することで飛沫感染や接触感染を防ぐ効果があります。新型コロナウイルスに感染しても30～50%が無症状とされているので、マスクは自分を感染から守るためではなく、他の人に感染させないために使用しましょう。マスクの着用も大事ですが、それ以上に手洗いが大切です。



**法律・労働・生活 編**

文責: 藤木和子 (NPO法人インフォメーションギャップバスター理事、弁護士)

※2020年5月27日時点で確認できている内容です。内容が変わる可能性がありますのでご注意ください。

● **緊急事態宣言とは**

政府は、新型コロナウイルスの広がりを防止し、

国民の命や健康、生活、経済を守るために、新型インフルエンザ特別措置法により、4月16日に全国に緊急事態宣言が発令された後、5月25日に緊急事態宣言は解除されました。しかし、これでコロナが終わったのではなく、今後も注意が必要です。



買いだめはやめましょう。特にマスクや消毒用アルコール等については、手に入らないと困る人がいることに配慮しましょう。

① **外出の自粛についての協力要請**

- 食料、医薬品等の生活に必要な買い物、通院などは制限されません。
- できる限り、在宅勤務の工夫を。

② **施設の使用停止、制限の要請**

③ **営業の休止要請、営業時間短縮の要請**



で、マスクを無料送付する。確認をお願いします」と記載され、URLが付いたメッセージがスマートフォンに届いた。⇒返事をしたり、URLをクリックしないようにしてください。

**【事例2】**「新型コロナウイルス流行拡大の影響で金の相場が上がるとして、金を買う権利を申し込むように言われた」。「新型コロナウイルスの影響で中国の経済がガタガタになっている。金の相場が上がることは間違いない」と勧誘された。⇒きっぱりと断り、絶対にお金を支払ったり、契約したりしないようにしましょう。

また、コロナ対策として「世界的にコロナウイルスは猛

威、ウイルス予防に〇〇エキス」「〇〇にウイルスは勝てない!」「身に付けるだけでウイルス予防」など科学的な根拠がない健康食品、マイナスイオン発生器、空間除菌商品等を販売する例も増えています。注意が必要です。

参考：国民生活センター

[http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20200228\\_1.html](http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20200228_1.html)

参考：新型コロナウイルスに関する生活問題Q&A(東京弁護士会、4月9日版)

[https://www.toben.or.jp/news/pdf/COVID-19\\_troubleQA.pdf](https://www.toben.or.jp/news/pdf/COVID-19_troubleQA.pdf)

## 情報・コミュニケーション 編

文責：伊藤芳浩(NPO法人インフォメーションギャップバスター理事長)

### ●正しい情報の入手の仕方

現代社会においては、音声による情報が主流であるため、聞こえる人、聞こえにくい人には自発的に情報を入手する努力が求められています。コロナ対応情報としては、各自治体のホームページやネットニュースで様々な情報が掲示されていますので、まずは、それを参考にしましょう。また、NHKの「手話ニュース」や「目で聴くテレビ」なども見るようにしましょう。

今回、コロナ対応の情報として、ソーシャルネットワークサービス(SNS)などを通して、数多くのデマ(うその情報)が流れるようになりました。例えば、「お湯で治る」「納豆が効く」「日赤医療センタードクターから～」などです。

転送する方は、「役に立つ情報だから」と善意で行っているかもしれませんが、結果として、誤った情報が広まってしまい、正しいことが行われなくなったり、不要な問い合わせが殺到したりと、各方面に迷惑がかかります。また、一度、流れた情報は簡単には取り消すことができません。転送する前に、一度その情報の内容や発信元が信頼できるかどうか(新聞社、専門家など)をよく確かめることをお勧めします。



### ●SNSを活用した情報交換・交流の仕方

交流を手軽に広げる方法としてSNSが活用され、主なソフトとしては、Facebook(フェイスブック)、Twitter(ツイッター)、Instagram(インスタグラム)等があります。外出自粛している聞こえない・聞こえにくい人を励ますために、全国のろうの有名人などが「コロナに負けるな」といった趣旨の動画をアップしています。リアルで会うことが難しくなった今だからこそ、SNSを活用する必要性が高まっています。

ただ、SNS活用の際には、以下の点に注意しましょう。

- ・誠実に対応し、批判したり、乱暴な言葉遣いをしないようにしましょう。
- ・信頼できるアカウントを選んで交流しましょう。
- ・全く知らない人との交流は避けましょう。

また、診断系など怪しいアプリはなるべく使わないようにしましょう。自分だけでなく友だちの個人情報をよく知らない会社に渡すことになり、悪用される恐れがあります。

### ●オンラインミーティングの進め方

外出自粛の要請が出ている状況では、実際に集まって会議することも難しくなっています。そこに今回注目を浴びてきているのが「オンラインミーティング」です。複数の人たちが、カメラが付いているパソコン、スマートフォンやタブレットでインターネットにつながり、映像や音声を通して、コミュニケーションするものです。「Web会議」とも呼ばれます。

オンラインミーティングのツール(次ページに、主なツールの比較表掲載)には、アプリが必要・不要、有料・無料、導入が簡単・難しい、画面レイアウトや操作方

法など、色々あります。それぞれ試して、自分に合ったものを使用してください。

## 主なツール

(いずれもアプリや会員登録が必要です 4月15日現在)

### ★Skype(スカイプ)

- ・利用人数は25人まで。
- ・利用人数が多いと通話品質が落ちてくる。

### ★Zoom(ズーム)

- ・会議開催者のみ会員登録が必要。
- ・利用人数は100人まで。
- ・自分の画面を相手に見せることができる画面共有機能がある。
- ・通話品質は良い。
- ・セキュリティ上の不安がある。
- ・3人以上の通話は無料版では40分まで。

### ★Google ハングアウト

- ・会員登録が必要。  
(会議開催者のみ、Google アカウントを使用)
- ・利用人数は10人まで。
- ・利用人数が多いと通話品質が落ちてくる。

## ● コロナ会見での手話通訳・字幕問題

新型コロナウイルス感染者の急増により、4月8日に安倍晋三首相が「緊急事態宣言」を発令しました。その際の記者会見では、NHK及び民放各局のすべての番組に手話通訳がついた様子をご覧になった方は多いかと思いますが、手話通訳や字幕をつけて、聞こえない・聞こえにくい人にも正しく情報を伝える必要性が認知された会見となりました。

また、字幕さえあればよいと考える人が多いですが、手話を第一言語として使用するろう者の中には、日本語を獲得する教育を十分に受けることができず、日本語のリテラシー(読み書き能力)が不十分ゆえに、次々と表

示される字幕をタイムリーに理解するのが困難になる傾向があります。とりわけ、専門用語などの聞きなれない言葉があると、それだけですべての内容が把握しづらなることがあります。このため情報が正しく伝わらずに、情報格差、ひいては、健康格差・経済格差につながってしまい、不平等が拡大してしまいます。したがって、ろう者にとっての第一言語である手話言語の通訳により、ろう者にも正しく情報を伝えることが必要です。



また、各都道府県によって新型コロナウイルスの感染状況は様々であり、施策も多様になってきています。このために、各都道府県においても、首長が会見をするようになってきました。この会見の手話通訳放送は、当団体の調査によると、6割の都道府県が手話通訳設置なしか、設置があっても放映されないということがわかりました。すべての住民に正しい情報を伝えるために、手話通訳を設置し、かつ、通訳者を画像におさめて放映すべきであり、これについては、関係者に当事者による組織的な要望として強く伝えていく必要があります。

## ● 対面手話通訳と遠隔手話通訳について

各地域にある手話通訳窓口から派遣される手話通訳者が、現地にて対面の上で通訳するのが基本的な形態です。しかし、今回のような状況では、聞こえない・聞



	対面通訳	遠隔通訳
良い所 ○	スムーズに伝わる 	感染防止できる 
悪い所 ×		意志疎通が不十分 

隔手話通訳の方が都合が良いといった場合のみに利用制限するべきです。

● 透明マスク・フェイスガードについて

新型コロナウイルスの感染が拡大している状況において、手話通訳者もマスク着用して健康を守る必要があります。ただ、手話の一部に口型などがあり、顔の半分近くをマスクで隠すと情報が正しく伝わらないおそれがあります。例えば、親指だけを横に立てる手話

こえにくい人の情報保障に必要不可欠である手話通訳者自身の健康が損なわれるおそれがあります。その代替手段として、遠隔手話通訳が注目を浴びました。これは、離れたところからインターネットを介して通訳する方法で、3月30日には、岡山県総社市役所で遠隔手話通訳導入に向けた実証実験が行われました。

さらに、厚生労働省が令和2年度補正予算で「遠隔手話サービス等を利用した聴覚障害者の意思疎通支援体制の強化」という名目で6億円の予算を計上しました。その内訳は、遠隔手話サービスの初年度経費や広報経費等を、厚生労働省が100%負担するというもので、遠隔手話通訳が必要と判断した自治体の下で利用することが可能となります。

ただし、通訳手段の選択肢が広がる反面、遠隔手話通訳は、画面に映る範囲という制約から、意思疎通がより不十分になることが懸念されます。対面手話通訳の完全な代替手段にはなり得ず、全面的に遠隔手話通訳に置き換えることは、積極的にすべきではないと考えます。あくまでも、他に手段がない場合や、利用者側が遠

は、指文字の「あ」の他、数字の「5」の2通りがあり、口型を見ないとどちらなのか判断ができません。そのために、口を含めた表情などが見えるようにする方法として、透明マスクやフェイスガードが注目されています。



透明マスクは、マスクの中央部が透明になっているもので、フェイスガードは、クリアファイルのようなシート状のものを額から吊るすものです。それぞれ、医療用や衛生用など既存の製品は多くあるのですが、需要に限られることから継続して生産する企業は少ないようです。現在は、このような危機的な状況ゆえに、多くの企業が生産することを期待しています。

4月14日の新型コロナウイルスに関する神奈川県知事会見にて、手話通訳者がフェイスガードを着用して通訳しました。その一方で、光の反射のせいで見にくい、完全に密閉していないので安全性に不安がある、息をすると曇るなどいろいろ課題はあります。今後の課題としてさらに改善されていくことを願っています。



こちらで透明マスクの作り方を公開しています。

